

開催地名：滋賀県大津市	
開催日時	令和4年1月25日（日） 14:10～15:10
開催場所	大津市市民文化会館
語り部	太田 千尋 （宮城県仙台市）
参加者	学区自主防災会長 36名
開催経緯	<p>当市では、琵琶湖西岸断層帯や東南海・南海地震による強い揺れは広範囲に及ぶとされ、琵琶湖西岸断層帯による地震の予測震度は最大で震度7、建物の全壊は38,504棟、死者数は2,182人に及ぶなど、甚大な被害が想定されている。</p> <p>長期間にわたって大規模地震による被害が発生していないことから、地域によって防災意識の差があり、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点、女性の視点から見た避難所運営においても自主防災組織等の住民の防災意識には地域差があるのが現状である。</p>
内容	<p>(1) 震災時の自主防災組織の活動</p> <p>自主防災組織の活性化、および組織作りに従事してきた経験から言うと、自主防災組織は法律に決められているわけではないので、まず、住民の理解を得るのが非常に難しく思う。しかし、自主防災組織の活動がしっかりとできているところと、できていないところとでは、災害時に大きな違いが生じてしまう。</p> <p>仙台市では、やはり津波の被害が大きかった。津波は地震から約1時間ほどで到達。波の高さは地域によって大きく異なり、必ずしも同様に襲ってくるものではない。住宅が基礎しか残らないほど流された場所や、汚水処理場では50センチの厚さのコンクリート壁が歪んだケースもあった。私どもの防災組織は、こういった津波被害を受けた地域、その瓦礫の中から人命捜索を行った。水が引いたところは比較的楽だったが、まだ海水に浸っているところなどは、3月初旬の仙台では氷点下が当たり前なので、とても厳しい状況だった。</p> <p>また、4月に入って暖かくなってくると、今度は水が細菌汚染されて、皮膚が濡れただけで発疹ができることもあった。</p> <p>(2) 水被害の場合の対処法</p> <p>まず、洪水や津波による避難勧告は、根拠なく言っていることではないので、そういったものがあれば、とにかくしっかり安全な場所に逃げてほしい。逃げる場所は避難所ばかりではなくて、親戚の家などでも構わない。</p>

	<p>とにかく「危険なところから離脱する」ことが重要。危険なエリアから逃げさえすれば、命は助かる。</p> <p>水というと優しいイメージがあるが、実際の水被害は瓦礫や物が水に含まれているので、それら混じりの洗濯機の中に人間がそのまま放り込まれるのに近い。よって、最初のうちは五体満足で発見できたご遺体も、日が進むにつれて各部分だけになるなど、厳しいことになっていく。</p> <p>(3) 自主防災組織の効能</p> <p>自主防災組織は地域に根ざした活動なので、避難情報を救難者に提供できることが大きい。「あそこの集落にはお年寄りが残っている」など、具体的な情報があれば、救難活動がスムーズに進む。地域のことを知っている人が救出活動の取りまとめをすることで、女性や身体の弱い方やお子さんを優先したり、できるだけ家族単位で助けるようにしたりと、細やかな配慮も可能となる。</p> <p>地域の方々を守ることができるのは、やはり自主防災組織であると思う。とにかく率先して住民の方々を助けられるような、そんな自主防災組織であってほしい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
開催地より	<p>自主防災の必要性、及び普段からの活動の重要性を再確認することができた。今後の防災に生かしていきたい。</p>